

東海愛知新聞ふるさと文芸部御中
ヴィラ葵俳句クラブ 平成22年6月度例会

久々の師の聲咳や青嵐 訪ふ人の絶えし史蹟に落し文 甦る友の語りや五月闇	石田昭太郎
交わりて句作一刻夏に入る 手作りの紫陽花菓子に舌鼓 御陀淨佛打數替へて更衣	大山ミツエ
六月や施設創立祝ひ膳 おこがまし男爵名乗る芋の花 「なでしこ」のきざみ煙草に父偲ぶ	近藤 武
さつき咲く長き柄杓に清められ あやめ咲く亡夫と樂む抹茶かな	大須賀鈴江
竹筒の器巧みに山つつじ 夏空や長く尾を引く飛行雲 病には負けじと誓ふ初夏の夜	杉山 保
時の日や古き時計の本堂に 短夜やいくつも夢をみてりぬ	佐々木紀久子
時の日や小雨の降りて姉迎へ	加藤 時子
亡き母の記す手帳や薦植へる 薔薇園の癒しの足湯園香る 車椅子押してバラ園廻りたる	鈴木 幸子
去り日に遠くなりけり柏餅 珍しく我が家の庭に螢舞ふ 紫陽花や入り日薄れる影さして	太田 正弘
畦道を手をつなぎ合ひ春の山 ヒヤシンス弾かぬピアノの上に置き	片岡ヒミ子
真夜に聴く風鈴の音に癒されし 竹馬に挑みし孫や夏雲雀 片隅に十葉楚々と尼の寺	山崎二三子

初夏の候 皆々様ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

久しく御無沙汰しております。現在、月に2回程、句会を開催しております。

時々投稿させて頂きますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

平成22年6月14日(月)

介護老人保健施設ヴィラ葵

ヴィラ葵俳句クラブ



